

会議結果概要書

1 会議名	令和6年度第2回名寄市上下水道事業経営審議会
2 開催日時	令和6年11月8日（金）午後6時30分から午後7時50分まで
3 開催場所	駅前交流プラザ「よろーな」1階 大会議室A B
4 委員	山上会長（○）、臼田副会長（○） 橋場委員（○）、川瀬委員（○）、栢山委員（○）、伊豆倉委員（×）、 吉川委員（×）、久保委員（○）、藤島委員（×）、清水委員（○） ※委員10人中7人出席
5 事務局	橋本副市長 東建設水道部長、佐藤上下水道室長（兼建設水道部次長）、有門工務課 長、松永浄水場長、大沼下水処理場長、成毛業務課長、小笠原業務課主 査、坂上業務課主査、成田業務課主査、中島業務課主査
6 議題等	諮問事項1 適切な水道料金のあり方について
7 会議結果	○諮問事項1 「適切な水道料金のあり方」について事務局より説明する。 また、検針サイクルの統一について事務局より説明する。 ・主な意見、質疑等は別紙1のとおり ○次回開催日程の確認 （日程）令和6年11月14日（木） （内容）諮問事項の適切な水道料金のあり方についての追加説明及び意見 集約

令和6年度第2回名寄市上下水道事業経営審議会 主な質疑・意見等

○諮問事項1 適切な水道料金のあり方について

問 料金改定率だけでなく、子育て世代や大口事業者など、実際の影響額を提示してほしい。

答 世帯人数や業種、事業者規模などによって使用状況が異なるため、一概に言えませんが、一つの目安として、東京都水道局が公表している月あたりの世帯人員別平均使用水量では、世帯人員1人で8.1t、2人で14.9t、3人で19.9t、4人で23.1tとなっています。事業者については、令和5年度の月あたりの平均使用水量では、大型店舗で1,600t、スーパーで500t、大規模ホテル業で500t～600t、飲食店では、規模が大小ありますが、口径13mmで12t、口径20mmで45t、口径25mm以上で70t、一般の事業所は、口径20mmで14t、口径25mm以上で30tとなっていますが、口径13mmは、事業者数が多いため把握しておりません。なお、次回の経営審議会の際に、影響額の目安として、子育て世代や口径13mmの事業者などの影響額を回答していきたいと考えているところです。

問 基本水量の変更(5t化)についての提案で、近年の使用実績では口径(13mm・20mm・25mm)問わず、6t前後の使用が多いと説明を受けたが、今の使用実績から考えると基本水量は5tが妥当な数値なのか。

答 基本水量は、これまで普及促進という観点で設定され、5t、8t、10tまでは、みなさん使っていただいているんですよ、と促している役割のほか、福祉的側面としても、この間は従量料金かかりませんという負担感がなくなるというものだったと考えています。しかし、普及促進という役割についてはすでに終えているものと考えられ、また現在の使用実績が6t前後くらいで、8t10tは少し大きめの設定であるほか、従来の5t、8t、10tは複雑で分かりづらいことなどから、5tに変更したいと提案したところです。

問 基本水量の変更(5t)すると、料金が上がる場所が増加すると思うが、その負担感について、どう考えているのか。

答 基本水量の変更(5t化)による影響については、案によって違いますが、8千万円程度の増収が見込まれ、その分、口径が20mm、25mmの使用者の負担が増えてしまいます。基本水量の5tまでのところまでは良いのですが、超えると急に30%、40%と料金が上がってしまう試算となり、そこをなんとか抑えようと、5tの基本料金額を減額するという調整をかけさせていただきました。調整の内容については、スタートは抑えられたのですが、5tから10tへと使っていくと超過料金の部分は足されて、徐々に使用量が20%台となりますが、後半は大体10%前後台に落ち着くというようなものにさせていただいたというものです。

問 総体として2割程度と財源が不足するので、できるだけ多くの人から幅広く負担感を多くしないで、その2割を確保しようというのが基本的な考えた方であると受け止めています。しかし、例えば単価調整のことで、一部マイナスの改定があったが全体でできるだけ広く薄く料金を上げて財源確保しようという中で、一部のところだけ低減されるというのが、どう市民に映るのか。利用者の負担が重くなる所と軽くなる所があると、それぞれ受け止め方は変わる。せめて据え置きにするか、そのほうが多くの人に理解をいただけるのではないかと思うが、考えを聞かせていただきたい。また見直しが可能であればしていただきたい。

答 ご指摘いただいたとおり、調整案では、口径20mmと25mmの基本料金が下がったので、そのまま基本料金が下がった分としてマイナス250円になっていますが、そのあたりを据え置きで調整すると、スタートラインがマイナスからゼロとなるので、使用水量が増えることによって負担感も増加していくことになるものと想定されます。今後、もう一度試算させていただき、14日の経営審議会にて、改めて差額早見表などを示して検討させていただきたいと考えています。